

知っておきたい医療費の制度③ 一自立支援医療(育成医療)一

医療連携・患者支援センター
ソーシャルワーカー 鈴木恵子

今年4月より従来の育成医療制度が自立支援医療という制度のひとつとなり、お子様の医療費公費負担制度の仕組みが変わりました。例えばどのような時にこの制度がご利用できるかについてご紹介いたします。

おもに形成外科や耳鼻咽喉科、眼科などの手術治療において、その手術により障害を軽減できると見込まれる場合、都道府県による公費負担にて医療費を少なくすることができます。この際、お気をつけ頂きたいのは、入院前に保健所の事前承認が必要ということです。手術の予定がある時、担当医とよくご相談の上、この制度の対象手術であると確認できれば早めに保健所へ申請なさるとよいです。

そして、自己負担額の設定については、保護者の方の住民税により下表のような額が決められています。もし育成医療に該当しなくても、健康保険適用の手術については高額療養費制度も利用できますし、就学前のお子様については市町村における乳幼児医療費助成制度もございますので、ご安心下さい。どの制度がご利用可能であるか等、お住まいの地域の保健所や市町村窓口、あるいは当院医療福祉相談室までご遠慮なくお問合せください。

自立支援医療(育成医療)の月額負担上限表

所得区分	自己負担額(上限額)		
一定所得以下	生活保護世帯	0円	
	市町村民税非課税世帯1 (保護者収入≤80万円)	2,500円	
	市町村民税非課税世帯2 (保護者収入>80万円)	5,000円	
中間所得層	市町村民税(所得割) 2万円未満	10,000円(※1)	「重度かつ継続」(※2)の場合 5,000円
	市町村民税(所得割) 20万円未満	40,200円(※1)	「重度かつ継続」の場合 10,000円
一定所得以上	市町村民税(所得割) 20万円以上	公費負担の対象外	「重度かつ継続」(※3)の場合 20,000円

※1 経過措置の金額であり、経過措置以降は医療費の一割が負担上限になる予定。

※2 「重度かつ継続」の範囲

疾病・症状等から対象となる者…腎臓機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害
高額な費用負担が継続することから対象となる者…医療保険の多数該当の者

※3 「一定所得以上」かつ「重度かつ継続」の者に対する経過的特例措置は、施行後3年を経た段階で医療実態を踏まえて見直す予定。

(千葉県ホームページ http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_jika/bosho/jiritsusien.htmlより)

盗壘王からの贈り物

阪神タイガースの赤星憲広選手が、シーズン盗壘数に応じて車椅子を個人で全国の施設・病院にプレゼントしています。今回17年度の募集に応募、抽選の結果当選し、当院に寄贈されました。これまでに15年度から3年間で169台を寄贈、選手としても5年連続盗壘王、昨年はリーグ優勝に大きく貢献しました。



東邦大佐倉だより

第5号 (2006.6.1)

東邦大学佐倉病院の基本理念

質の高い医療を安全に提供できる病院
地域に貢献する病院
人間愛を共有できる病院
楽しく明るくチャレンジする病院
良き医療人を育成する病院

自然・生命・人間
東邦大学 学祖 頷田 晉・著「自然 生命 人間」より

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1 東邦大学医療センター佐倉病院 ◇日本医療機能評価機構認定病院◇

TEL 043-462-8811 (代) FAX 043-462-8820 (代) URL:<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> 発行/広報委員会

Topix News

◇佐倉病院増床計画/
事務部長 松本 修三

部署紹介

◇外科

◇新任紹介

◇外科

◇産婦人科

◇事務部

◇薬剤部

活動

◇院内教育委員会
~2つの研修医ワークショップを実施して~

患者様支援コーナー

◇知っておきたい医療費の制度
◇盗壘王からの贈り物

Topix News

佐倉病院増床計画 …院内再整備に向けて…

事務部長 松本修三

地域医療機関の皆様には日頃よりご支援、ご協力を賜り有難うございます。さて、東邦大学医療センター佐倉病院(以下佐倉病院という)は予てから念願でありました増床計画に取り組んでおります。その計画の概要についてご説明いたします。

現在、佐倉病院は外来患者様が平日で1,500名を超え、300ベッドの病床もほぼ満床の状況の中で病院運営をして参りました。この状況は開院時の想定規模をはるかに越えた患者数であり、地域の中核医療を担う病院機能を喪失させつつあります。このたび、更なる医療の質と効率の向上を図るために、新病棟を建設し、更に既存外来を拡張することなどの整備をする事と致しました。

増床計画の概要

新病棟は地上7階建て延床面積12,232m²を擁し、今回151床を増床し、既存病床と合わせて451床で運用を計画しております。更に既存棟改修工事として約6000m²をリユースし、外来環境の整備にも取り組みます。手術室は現在の5室から8室へ。ICU・CCU8床に、更に地域周産期母子センターを新設します。また救急専用ベッドとして10床を設置したいと考えております。工事期間は、昨年17年12月既に新病棟増築工事に着手し、平成19年6月に新病棟を完成する予定です。並行して、平成18年9月からは外来を中心とした既存棟改修工事に着手し、平成20年1月に全ての建設工事を終了し、平成20年2月(予定)にフルオープンする予定であります。

院内診療体制の再整備

地域に貢献する中核病院として、病診及び病病連携を拡充するため、救急部門の充実を第1と考えております。その基盤となる総合診療センターは、総合診療部、救急・ICU・CCUで構成されます。総合診療外来は診療責任者等が診療に携わり、救急部には救急専用ベッド10床を置き、軽症、中等症の患者様を対象に、院内で「まず受ける体制」を計画しております。救急隊或いは他医からの患者受入要請に対して迅速な対応、受入患者の大幅増加が可能となり、従来の救急体制の不備を補うものと期待しています。また地域の診療関係者に信頼される佐倉病院を目指し、地元医師会はじめ医療関係者との交流や連携を更に密にしていきたいとも考えています。

また、今回設置する地域周産期母子医療センターはNICU9床、中等症回復室6床から構成されます。周産期医療の供給体制は全国的に不十分で印旛市郡、近郊地域もその例を見ません。増床後は母体搬送、新生児入院依頼に十分対応可能な施設となります。

以上増床計画の一部ですが、佐倉病院は今回の計画を機にハードの拡充・改善のみならず、地域の皆様に信頼される中核病院として、かつ安全で高度な医療を提供する医療機関として、日々研鑽し続けてまいります。今後とも宜しくご支援、ご協力のほどお願い申しあげます。



新病棟完成予想図

外科について

外科教授 加藤 良二

外科というと何を想像するでしょうか？一般の方々は「盲腸の時、すぐに切りたがる野蛮な医者」、「交通事故などで骨折や傷の手当をする」或いは「包丁で指を切った時に縫合する」など虫垂炎は別として外傷の手当を思い描く人が多いのではないかですか。最近でこそドラマやマスコミの影響もあって、胃癌や大腸癌など腹部の手術をするか、心臓や肺の手術をすることが外科医であるとの認識も広まって来ています。しかし、外科も内科と同様に大変広い範囲をカバーしています。

元来外科とは、物理的手術または処置により疾病や創傷や変形を治療する医学の一分野（即ち切った貼ったで治療する）と位置づけられていましたが、近代医療で婦人科、泌尿器科、脳外科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、形成外科などが担当する臓器や使用する器具の特殊性によって外科から分派専門化しました。

現在の外科は、**胸部外科**（心臓血管、呼吸器など）、**消化器外科**（胃などの上部消化管、大腸肛門などの下部消化管、肝胆膵など）、**内分泌外科**（乳腺、甲状腺、副腎など）に大きく分かれています。**食道外科**は頸部・胸部・腹部にまたがっており主に消化器外科が担当することが多いのですが、大きな外科や食道を伝統とする外科の教室では食道外科として独立しているところもあります。また移植を主に行う**移植外科**や、色々な臓器を扱うのですが15歳までと限定して**小児外科**という特殊なチームもあります。

外科医は治療をするのにメスを使います。非常に危険であり患者さんにとって大きな苦痛を伴うものです。この患者さんの苦痛を最も理解できるのも外科医なのです。患者さんに与える苦痛や侵襲と引き替えにしても治さなければないと判断した時に手術を行います。やたらめたら切りたがるものではないと御理解下さい。

佐倉病院外科の特徴は専門的知識と技術を備えた指導医の元で、幅広い領域を全てカバーできる総合外科治療を提供できる点にあります。「三つ子の魂百まで」といいますが、専門分野しか知らない指導医の元では多種多様な患者さんの症状や要望に応えられる外科医は育ちません。ともすれば専門に走りがちな指導医間の連携を良く取り、さらに関連各科（呼吸器内科、循環器科、消化器内科、臨床病理部）とも毎週のカンファレンスを行いながら若い力を育て、オーソドックスな外科手術を行っております。また婦人科、泌尿器科とも連携して手術に当たる一方で、最先端の遺伝子診断を用いてがんや痛みの治療に役立てる研究や患者さんに優しい低侵襲（内視鏡下手術や乳房温存手術などの）手術を開発・駆使した治療も行っています。

常に満床状態で手術の必要な患者さんにとって夜間のみならず昼間も緊急でお受けできないような状態が続いている心苦しく思っております。住民の皆様には御迷惑をお掛けいたしておりますが、佐倉病院の外科スタッフは教授以下14名が一丸となり、地区の基幹病院として多くの患者さんに「高度で安心のできる先端医療」を提供できますよう、増床に向けて若い研修医も含めて研鑽を積んでおります。

外来については各種臓器・疾患に分かれて診療しております。消化器外科は消化器センター外来（月～金）、呼吸器（肺・縦隔）外科は外科・呼吸器外科外来（水）、心臓血管外科は循環器センター外来（月～金）、乳腺外科は外科・乳腺外来（月・火）、小児外科（15歳以下）は外科・小児外科外来（月）でそれぞれ専門医が、甲状腺（水）・鼠径ヘルニアなどその他は一般外科外来で診療しておりますが、迷われたら外科外来（月～土）を受診なさることをお奨めいたします。

診療対象疾患

- <消化器外科>食道・胃・小腸・大腸などの消化管良性・悪性腫瘍（がん）、肝臓・胆嚢・膵臓などの消化器良性・悪性腫瘍（がん）、以上の臓器による炎症性疾患（胆嚢炎、虫垂炎、腹膜炎、クローン病、潰瘍性大腸炎など）、痔疾患（痔瘻、痔核、裂肛など）、その他（腸閉塞、腸捻転、腸重積、内ヘルニアなど）
- <呼吸器外科>気管・肺・縦隔・胸壁の良性・悪性腫瘍（がん）、自然気胸、胸部外傷（肋骨骨折、血氣胸など）、肺膿瘍・膿胸、手掌多汗症、甲状腺・副甲状腺腫瘍
- <心臓血管外科>心臓弁膜症、虚血性心疾患（狭心症など）、心筋梗塞合併症（心破裂など）、大動脈瘤、肺梗塞、静脈瘤、閉塞性動脈硬化症
- <乳腺外科>乳癌と乳腺症、
- <小児外科>15歳までの鼠径ヘルニア、腸重積、幽門狭窄症など
- <一般外科>上記の内、心臓血管外科を除いた全ての疾患と成人の鼠径・大腿ヘルニア、副腎腫瘍、腹壁腫瘍など

～ある日の手術場風景～

〈3部屋同時に外科手術を行っていました〉



消化器外科手術、真っ最中



心臓血管外科手術終了時のホッとした顔



画面を見ながら呼吸器外科内視鏡手術

新任紹介

外科教授

加藤良二 (2005. 12. 1付)



昭和54年に群馬大学医学部を卒業後、群馬大学医学部第一外科学教室に入局。消化器外科として研修し、昭和60年国立がんセンター肝臓外科、昭和63年東京医科大学呼吸器外科等での研修を経て、平成5年より群馬県立がんセンター外科部長としてQOL（生活の質）を重視した、消化器癌・呼吸器癌に対する内視鏡下手術の開発普及に取り組む。一方で、癌に対する免疫療法を併用した集学的治療の研究を続けている。平成9年群馬大学医学部第一外科講師、平成12年より東邦大学医学部付属佐倉病院外科講師を歴任。平成17年12月より本職。

専門分野 呼吸器・消化器外科を含む一般外科学

外来診療日 一般教授外来；火曜日を除く毎日、呼吸器；水曜日、ストーマリハビリテーション外来；水曜日午後
一言 高い専門性を融合させ、高度な技術を駆使した外科の総合診療を提供します。

産婦人科教授

木下俊彦 (2005. 12. 1付)



昭和54年に東邦大学医学部卒業。東京大学産婦人科にて研修、山梨医科大学産婦人科講師を経て平成8年より当院に勤務し、現在に至る。

専門分野 産婦人科一般

外来診療日 火曜日、金曜日

一言 地域医療への貢献をモットーに、産婦人科全般に亘っての診療を心掛けます。

事務部長

松本修三 (2006. 4. 1付)



この度平成18年4月1日付けで木下事務部長の後任として、事務部長の職を引き継ぐことになりました。私は昭和51年に東邦大学に奉職し、今まで施設設計画の立案や新築工事管理など施設関係業務を中心に仕事をして参りました。この間佐倉病院増床計画プロジェクトに係わる事が縁で、事務部長の職を拝命することとなりました。今回の増床計画は佐倉病院念願の事業であり、病院の総力を挙げ、職員一丸となって進めているところであります。現在の慢性的満床状態から少しでも余裕のある医療機関として、地域の皆様に医療を提供できる時期も間もなくかと考えております。今暫くのご辛抱の程宜しくお願い申しあげます。ご用命の節は何なりとお申し付けくださいますよう重ねてお願い申しあげます。

薬剤部副部長

真坂 瓦 (2006. 4. 1付)



昭和56年に東邦大学薬学部薬学科卒業。同年、鶴岡市立庄内病院へ入職。平成3年4月より東邦大学医学部付属佐倉病院開設準備室に主任薬剤師として入職、現在に至る。

一言 薬学教育6年制のスタートにより、我々薬剤師は大きな転換期を迎えることとなり、将来的には薬剤師の職能の向上にも繋がるものと思います。薬学生の長期実務実習においては、質の高い教育指導を実践できる病院薬剤師の育成が望まれております。本年度より、前薬剤部長の後任としてその重責を引き継ぎ、微力ながら力を尽くしていく覚悟でございます。今後もどうぞ宜しくお願いいたします。

活動

院内教育委員会～2つの研修医ワークショップを実施して～

新医師臨床研修制度が平成16年5月にスタートし、この4月末に新体制後最初の研修医13名が無事前期臨床研修を修了しました。また新たに11名の新研修医を迎えましたが、看護師などの新職員に混じって各部署において前期臨床研修を開始しました。



院内教育委員会では、卒後臨床研修委員会の委員を中心となり、15、16年度研修医を対象としたワークショップと新研修医を対象としてオリエンテーションの中に組み込んだワークショップを開催しました。研修医は、前者では指導医・指導部署の評価を、後者では「理想の医師像」をテーマにそれぞれワークしました。新研修医の行動目標の中心に「人間性を高める」が位置付けられており、今後の成長が大変期待できる内容でした。



「東邦大学医療センター佐倉病院」に名称変更

東邦大学医学部3センター構想に基づく組織改革の一環として、東邦大学医学部付属佐倉病院は、平成18年4月1日に「東邦大学医療センター佐倉病院」に名称変更しました。この3センター構想は、医学部の有する教育・研究・診療の3つの機能を再確認し、診療面を強調した「医療センター」を付属病院の機能として位置付ける名称であります。当佐倉病院はこの度の名称変更を機に思いを新たにし、地域医療関係者及び地域住民の皆様に更なる医療サービスの向上を目指し銳意精進する次第であります。